

全国市町村長サミット2025 in 秋田

＜第二分科会：地域運営組織＞

～ 人口減に負けない！
「未来への希望」が持てる、
元気なまちづくりを目指して～



令和7年10月27日（月）

岩手県 奥州市長 倉成 淳





奥州市の紹介

2



奥州市は、平成18年2月に、

- ・**水沢市**（合併当時の人口：60,153人）
 - ・**江刺市**（同33,414人）・**前沢町**（同15,206人）
 - ・**胆沢町**（同17,565人）・**衣川村**（同 5,113人）
- の2市2町1村が合併して誕生。

総面積は993.30km²（東京23区の1.5倍）

土地の利用状況は、林野が54.6%、農地は21.5%、宅地は3.9%

主要産業は、農業、半導体関連産業、鋳物産業等



歴史公園えさし藤原の郷



岩谷堂箪笥



南部鉄器



田んぼアート



前沢牛



江刺りんご



MLB マンホール



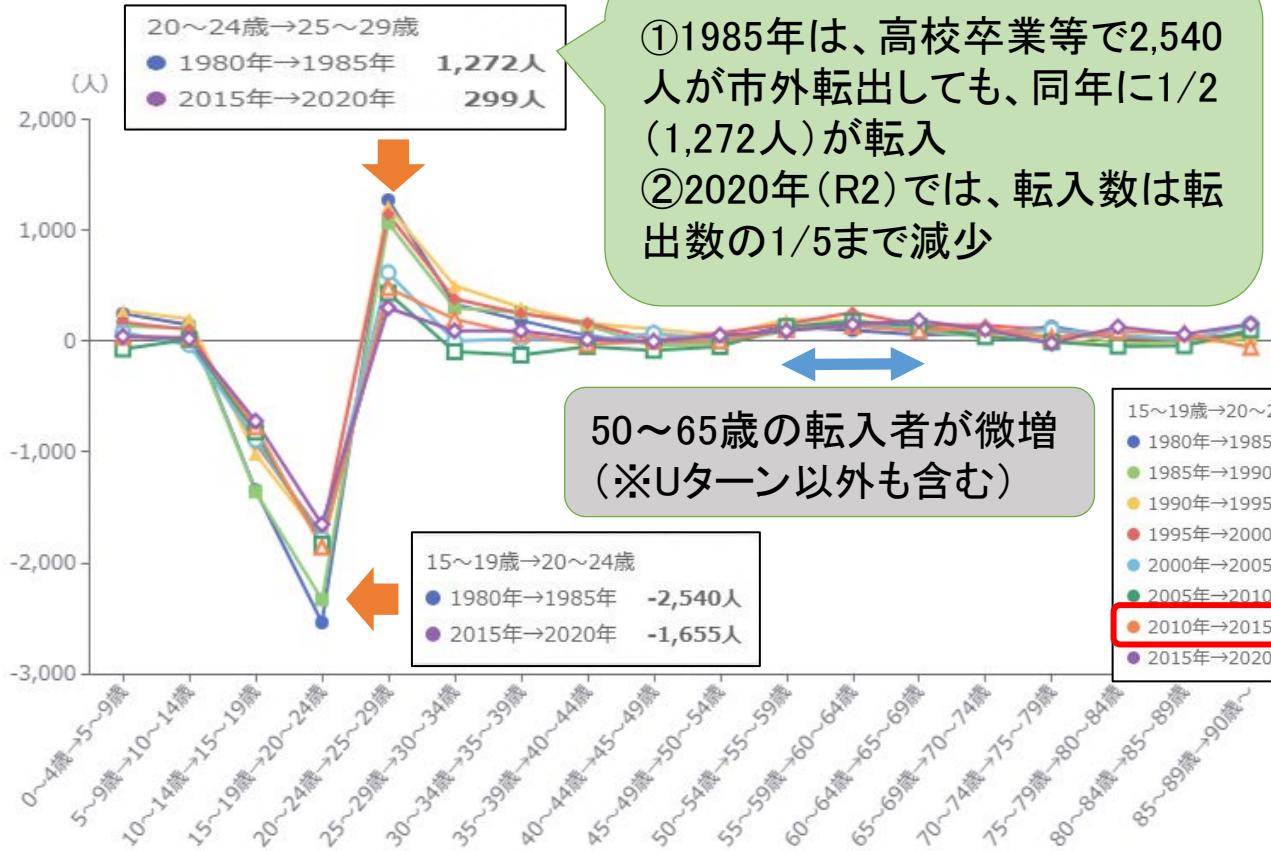
大谷翔平選手壁画、9/1オープン

奥州市の人口（社会増減の状況）

奥州市の年齢階級別純移動数 時系列分析

国勢調査人口（5歳階級別）が、5年後にどのように増減しているかを表したグラフ

● 1980年→1985年 ■ 1985年→1990年 ▲ 1990年→1995年 ● 1995年→2000年 ○ 2000年→2005年 □ 2005年→2010年
 ▲ 2010年→2015年 △ 2015年→2020年



奥州市の社会増減は10代～30代の転出超過が影響

【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

【1】「人口減少でも元気なまち」に必要な要素



« 国土交通省が主催する講演会での
衝撃的な内容 »

重要な要素は二つ

- ①未来への希望
- ②地域の寛容性

全国5万人の都道府県別意識調査

- ①地元の住人
- ②地元から首都圏に移住した人

「地域の希望」の全国順位

- ①沖縄県が1位、福岡県が2位
- ②ワースト5に東北の3県

注) 岩手県では人口減少対策として、「アンコンシャスバイアスの排除」と明記



奥州市未来羅針盤図

市が目指すまちの開発デザイン

全市展開

1 地域医療奥州市モデルプロジェクト

地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築

2 未来型公共交通プロジェクト

利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

3 小さな拠点づくりプロジェクト

地域住民・民間組織・市の協働による持続可能な生活圏の維持

奥州湖周辺エリア プロジェクト

アウトドアフィールド・
アクティビティの開拓と
人材育成、民間企業との
連携強化

小さな拠点づくり(衣川) プロジェクト

協働による持続可能な生活圏
の維持(見守り電球を使った
高齢者の見守り、民生委員活
動にタブレット活用など)

水沢市街地エリア プロジェクト

メイプルリニューアル、
水沢公園リニューアル、
駅前周辺の賑わいの創出

江刺市街地エリアプロジェクト

誘致企業雇用者対策、官民連携による
市有地有効活用

小さな拠点づくり(伊手) プロジェクト

協働による持続可能な生活
圏の維持(旧伊手小学校を
活用した拠点づくり)



奥州市未来羅針盤図の8つのプロジェクト（令和5年～）

◆全市展開

●個別PJ

◆ 地域医療奥州市モデルプロジェクト

- ・地域医療関連施設のそれぞれの強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、ネットワーク型による地域医療体制を構築

◆ 未来型公共交通プロジェクト

- ・DXの活用や共助による公共交通システムの構築
- ・市民・関係人口の双方にとって利便性が高い公共交通システムの構築

◆ 小さな拠点づくりプロジェクト…「未来への希望」+「寛容性」

- ・地域住民が、自治体や関係団体等と協力・役割分担をしながら、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する「小さな拠点」づくりの推進

● 市街地（水沢、江刺、前沢、水沢江刺）開発プロジェクト(4)

- ・若者がいつまでも住みたくなる、地域の特徴を生かした、官民連携によるコンパクトで魅力的なまちづくりの推進

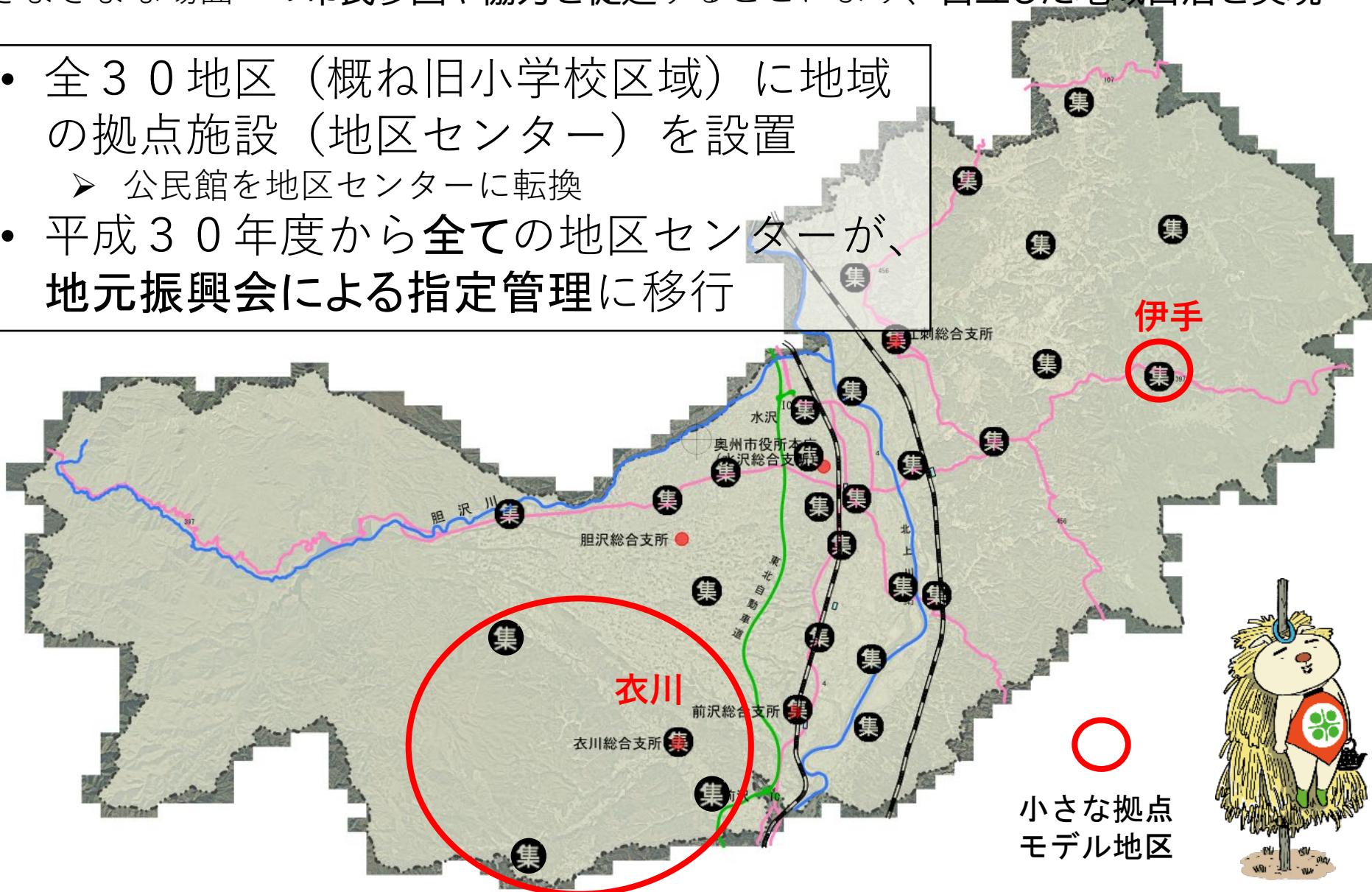
● 奥州湖周辺開発プロジェクト…「未来への希望」+「寛容性」

- ・豊かな自然を生かしたアウトドアアクティビティの推進による、観光を含めた関係人口の拡大

奥州市の地域運営組織

地域課題の解決に向けて、市民ニーズに対応したきめ細かく質の高いサービスの提供、さまざまな場面への市民参画や協力を促進することにより、自立した地域自治を実現

- 全30地区（概ね旧小学校区域）に地域の拠点施設（地区センター）を設置
 - ▶ 公民館を地区センターに転換
- 平成30年度から全ての地区センターが、地元振興会による指定管理に移行



小さな拠点づくりプロジェクト



狙い

【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって日常生活に必要な機能・サービスを集約し、地域資源を活かした持続可能な生活圏を維持する

活動の
ステップ

①地域住民による
「地域デザイン」の策定

②住民主体の 地域
運営組織の形成

③生活サービス
の維持確保

④仕事・
収入の確保

モデル1 衣川地域生活圏

- ◆R4年度に衣川地域振興会連絡会を運営組織として「小さな拠点づくりモデル事業」のモデル地区指定
- ◆住民との話し合いにより、プロジェクトの「狙い」に即したモデル事業を実施

地域と市の協働でモデル事業

見守り電球を使った高齢者の見守り

モバイルクリニックによる遠隔診療

地域おこし協力隊による地域資源活用

高齢者デジタルサポートによるスマート活用の推進

民生委員活動にタブレットを活用

地域の企業団体との連携
(宿泊施設、スキー場等)

モデル2 江刺地域・伊手地区生活圏

- ◆地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
- ◆旧伊手小を複合施設に利活用… 1階に伊手地区センターを移転 2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に 地域資源を活かした生業の創出・地域交流

農福連携の推進・農作物の加工



体験プログラムの構築
グリーンツーリズム



キャンプや野外イベントの開催



安らぎの場
ブックカフェの開設



地域の企業団体との連携
(りんご園、食堂、産直施設等)

伊手地区農村RMO(農村型地域運営組織)の取り組み

農用地保全

鳥獣被害対策として未利用果樹の利活用イベント
耕作放棄地へのピーカンナッツ植樹
農地活用に関する学び・実践の場「みのり大学」
「けもの大学」の開講



生活支援

地区内交通とそれを補完する

◆地区内交通「いで・ごー」
(月・火・金 往復3便運行)

指定乗降場所 案内図



「買い物支援」・「通院支援」→タクシー会社の廃業により、新事業立ち上げ
(令和7年度から)



運行形態	公共ライドシェア (交通空白地有償運送)
運行日	月～金
行き先	伊手地区内と地区外の指定場所
運行時間	8時～19時
利用料金	タクシーの半額程度

運転:事前に登録したボランティアドライバー

車両:ボランティアドライバーの自家用車(車両持ち込み)

伊手地区農村RMO(農村型地域運営組織)の取り組み

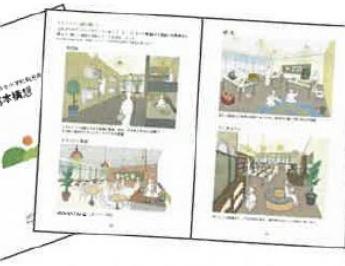
10

地域資源活用

旧伊手小学校利活用「基本構想」



ワークショップや住民アンケートなどを
行い、旧伊手小学校利活用「基本構想」
を作成して住民に配布するとともに
市にも提出しました。



サマーキャンプ 2024 ~



2024年度から、旧校舎で小学生対象のサマー
キャンプを毎年開催。体育館や校庭での遊び、地
域の高齢者を先生に竹灯籠づくり、地域の特產品
開発と絡めたメンマづくりなど内容は盛りだくさ
ん。2年目からは中高生のボランティアを含めた
スタッフが一緒に運営するようになりました。

伊手婦人咖喱祭 2024.11



商店街を会場に、賑わいの復活とフードロス削
減、鳥獣への餌化防止を目的とした『伊手婦人咖
喱祭』も開催。カレー等のふるまいやキッチン
カー、出店などが並び、幅広い年齢層の方々約
300人が訪れる活気あふれるイベントとなりま
した。

伊手農村農業活性化協議会作成「農村RMO活動報告書」より

令和7年6月12日発行

明るい未来を実感できる“日出る伊手”をつくる

第12号

サンライズ新聞 伊手

伊手へ取り組む事業についてお知らせする瓦版です。毎月一冊を販売して行なっています。



市長との熱いディスカッション 地域と未来を語る!



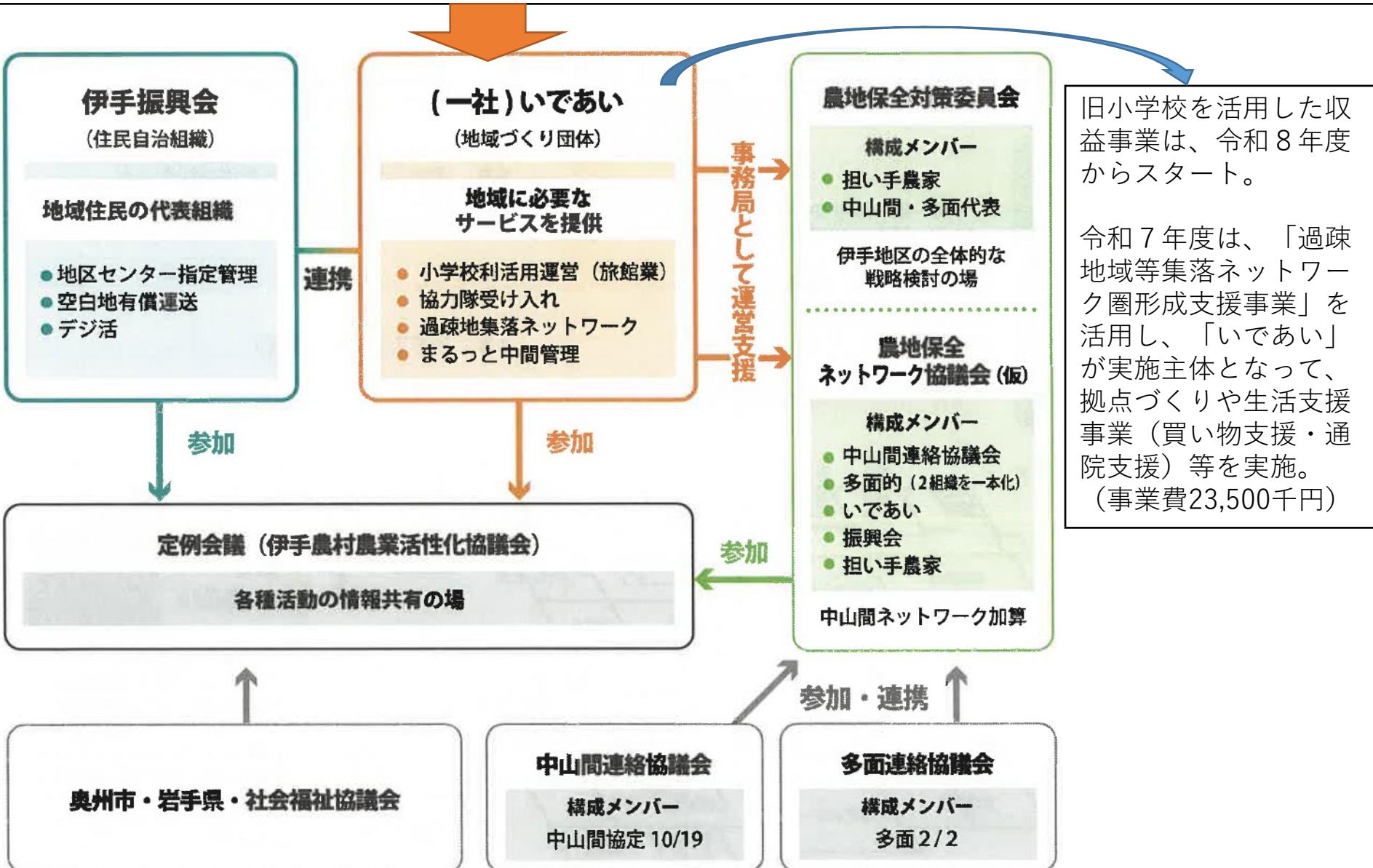
放置竹林の
利活用策
メンマを試作



- 市では、「集落生活圏」を維持し、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、地域にあった生活サービス・交通ネットワークの確保等に取り組む地区を、**小さな拠点づくりのモデル地区として指定**。
- 伊手地区は令和6年3月に指定

自律型地域運営組織への移行

廃校となった小学校を活用→コミュニティビジネスも含めた地域運営組織への移行



小さな拠点づくりプロジェクト（江刺地域：伊手地区）

「日出る伊手」づくりプロジェクト



ユニークなサービス

- ◆いで おでかけ
サロン
- ◆いで通院支援

目的と整備内容

- 1) 関係人口増やす
 - ・宿泊及びレンタルオフィススペース
 - 2) 地域の生業づくり
 - ・地域加工場整備（りんご、漬物、メンマ等の特産品）
 - 3) その他
 - ・地区センター、子育て支援、農福連携
 - ・売上高：5年で35百万円目標
 - ・一般社団法人として運営
 - ・国の交付金申請
- 2025年度1.5億円交付決定！

次に、奥州湖周辺開発プロジェクト

「未来への希望」+「寛容性」

包括連携協定先の国土交通省・日本カヌー連盟・
モンベル社と連携してカヌーワールドカップの招致

アクティビティの場所（奥州湖付近の地図）



国の交付金 2025年度1.7億円
継続財源 水源地域振興基金

- 1) 奥州湖交流館整備事業の継続
→日本代表選手の強化合宿所
【日本No.1のカヌー競技場】
- 2) 国交省のハイブリッドダム構想
→自然越流水利用の発電による
収益の活用【事業の原資】
- 3) パドルスポーツの普及やBBQ
サイト・マルシェの創業
【生業づくり】

イメージ図



胆沢ダムにおける融雪時の自然越流水有効利用の試行

14



電源開発(株)

・発電事業者

胆沢ダム

岩手県
Iwate Prefecture

岩手県企業局

奥州金ヶ崎
行政事務組合

・水道事業者



・発電事業者

胆沢平野
土地改良区

・かんがい事業者

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所
胆沢ダム管理支所

・ダム管理者

奥州市
・地元自治体
水源地域振興

現状

(融雪期)
ダム越流量 大

試行運用

(融雪期)
ダム越流量 小

高い水位の維持が必要

規定された高い水位以上を維持して発電

発電取水量

規定の水位を低下させる時に発電取水量が増加し、増電

発電
増大

発電取水量 大

まとめ

地域格差と地方創生の課題

□都市と地方の格差

- ・都市と地方の経済格差を停滞の言い訳にしないことが大切です。
- ・地方の元気の源は「未来への希望 + 寛容性」

□地方創生の重要なポイント

- ・地方創生は持続可能な社会づくりを目指す当事者意識が「地域の寛容性」を生む。
- 行政のタイムリーな伴走支援が重要

□地域資源の活用

- ・ヒト・モノ・カネ・情報の有効活用
- ヒト→謙虚で大胆な発想をする若い人材がいる。
粘り強い人間性も魅力（大谷翔平効果？）

市民に分かりやすく伝える！
このミッションに対し、若手職員チームが出した答えは？



全国シティプロモーションアワード2024
金賞受賞 !!

「三年味噌に余念なし」

長期醸造味噌は多様な機能を持った微生物
(カビ・酵母・乳酸菌) の活躍の結晶



ご清聴ありがとうございました